

(4) 土佐の下剋上

土佐の豪族 戦国時代、武田信玄・上杉謙信・織田信長・豊臣秀

吉・徳川家康そのほか、多くの武将たちが、それぞれの知恵と力で領地をひろげ、日本統一をゆめみていました。

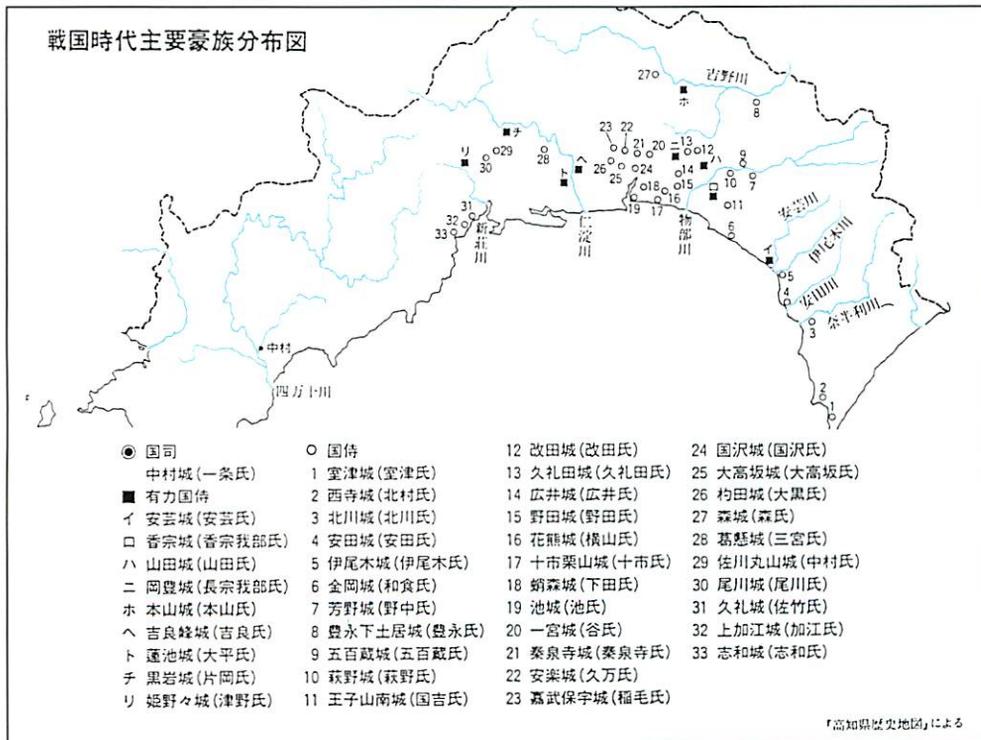
わたしたちの郷土・土佐には、信長や秀吉たちのように、天下統一・領地拡大をゆめみる武将たちは、いなかったのでしょうか。

当時、土佐には、「土佐の七守護」「土佐の七人衆」といわれる国侍たちがいました。

彼らは、細川守護代の勢力が弱まると同時に土佐の統一をめざし、戦いをくりひろげることになりました。

岡豊小学校の西にある岡豊山にもそのうちの一族・長宗我部氏が城をきずき、細川氏の保護のもとに吸江庵の寺奉行をつとめていました。

しかし、1508年ごろ、本山氏・山田氏・大平氏・吉良氏などの豪族が岡豊城を攻撃し、19代城主長宗我部兼序をせめおとしました。



おこうじょうらくじょう
 岡豊城は落城し、そのため
 ちようそがべしよりようもどやま
 に長宗我部家の所領は、本山
 氏などの豪族ごうぞくに分けられてし
 まったのです。かねつぐ
 兼序は、一子
 せんゆうまるくにちかしょうらい
 千雄丸（のちの国親）に将来
 の望みを託し、はたのしょう
 幡多荘（現在の
 の幡多郡）中村いちじょうの一条氏のも
 とへ落ちのびさせました。



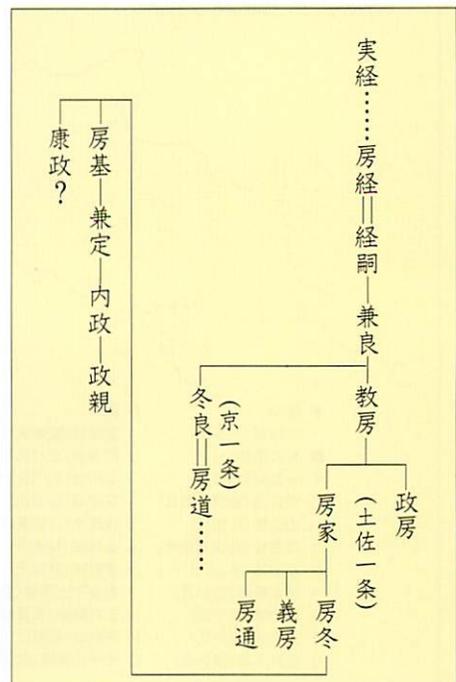
岡豊城址

土佐一条氏と長宗我部氏

現在の四万十市中村が土佐しよきやうとのしょうきやうと小京都とよばれるようになったの
 は、どうしてでしょう。

それは、おうにんらんおうにんらんの乱をさけて、京都よりこくし国司として、土佐の国にう
 つり住んだ一条教房のりふさが中村を京の都にに似せてつくらせた町だからで
 す。まちなごばんまちなごばん街並みは、碁盤のめのように広がり、ぎおんきやうまちかもがわひがしやま
 祇園・京町・鴨川・東山
 といった京の都とおなじ地名の町や山があります。現在でも、旧の
 7月16日ほんの盆には、だもんじやまだもんじやま大文字山の送
 り火が行われています。戦であれ
 た都をすて、土佐にくだった一条
 氏であったのですが、やはり、京
 の都でのくらしをわすれることは
 できなかつたのでしよう。

土佐一条氏略系図



一条氏・七守護の所領		
一条氏の所領 16,000貫	津野氏	5000貫
	大平氏	4000貫
	吉良氏	5000貫
	本山氏	5000貫
七守護の所領	安芸氏	5000貫
	香宗我部氏	4000貫
	長宗我部氏	3000貫

もとやま おこうじょう ちょうそ が べ かねつぐ
本山氏らにせめられ、岡豊城をあとに逃げのびた長宗我部兼序の
せんゆうまる いちじょう け ほ ご げんぶく くにか
子千雄丸は、一条家の保護を受けて成長し、元服して国親と名のり
1518年、一条房家のせわで、岡豊城に帰ることができました。

岡豊城に帰った国親は、勢いをもり返し、大津城・介良城など近
くの城をつぎつぎとせめ、領地をふやしていきました。

大津城は、中村一条家のものでしたが、国親が恩を受けた房家は
すでになくなっていました。そこで、国親は勢力を広げるために大
津城をせめほろぼしました。

げこくじょう
土佐にも下剋上のあらしがふきあははじめました。

とさ で き び と もとちか
土佐の出来人・元親 元親は、国親の長男として、1539年に岡
豊に生まれました。幼いころは、あまりものをいわず、色白で、人
にあいさつもしないおとなしい性格だったので、「姫若子」とよば
れていたそうです。

はた かまくら しなの
長宗我部氏の先祖は、秦氏で、鎌倉時代のはじめごろ、信濃（長
野県）から土佐のながおか そが べごう
長岡郡宗我部郷にうつってきたといわれています。

かもん
宗我部郷にうつってから、長宗我部を名のり、かたばみの家紋を

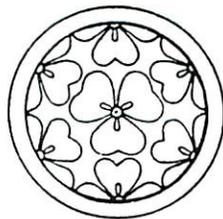
やながれ こせんじょうあと あき あかの
矢流古戦場跡（安芸市赤野）

はた じるしほんきよち
旗印に、岡豊城を本拠地としました。

いくさ
元親が、初めて戦に出たのは、22才のと
きでした。元親は、やり
槍のつきかたを知らな

かたばみの家紋

かったので、その方法を家
らい
来にたずねたところ、「敵
の目をつけばよい」「大将
はむやみに先駆けするもの
でなく、また、逃げてはい
けない」と教えられました。



もとちか
元親は、教えを守り、みごとに本山軍をうち破り、人々から「土佐の出来人」といわれるようになったと言いつたわれています。

元親は、父国親の病死後、父のあとをつぎ、勢力をのばしていきましました。1569年、元親軍は、土佐東部の有力な豪族安芸国虎軍をせめおとしました。元親軍は、安芸軍を海と陸からのほさみうちにしたのです。現在でもそのときの激戦地が、矢流という地名で残っています。

安芸氏をほろぼした元親は、こんどは、西の一条兼定を渡川（四万十川）の戦いでせめおとしました。

こうして、1575年、長宗我部元親は、土佐の国の統一をなしてげました。

長宗我部氏略系図

